

企業が行う子ども食支援について



アルファクラブ武蔵野株式会社

会社概要

- 【所在地】 埼玉県さいたま市大宮区上小町535
- 【創業】 昭和37年6月
- 【創立】 昭和39年9月
- 【年商】 216億円
- 【事業内容】 互助会事業、冠婚葬祭事業、レジャー事業
- 【従業員数】 1,400名



事業内容



互助会事業

A Mutual Aid Society



葬祭事業

FUNERAL



ブライダル事業

BRIDAL

BRAND NEW ōMAN

「ブランニューマン」

婚礼・葬儀以外の通過儀礼を統括するブランドです



ベベ



ブランニューマン

Gaju

賀寿

当社施設（車両）を利用したこども支援

葬儀場



結婚式場



埼玉県内にある約100ヶ所の施設は、子ども食堂の開催場所として利用できます。広い会場ですので、ソーシャルディスタンスを確保することができ、大人数でも対応可能です。

また、施設によっては駐車場もある為、フードパントリーの受け渡し場所としても活用できます。冷蔵庫・冷凍庫も完備しており、食品の一時保管場所としての利用もできます。

当社で保冷車も保有しております。冷凍食品の輸送に重宝されており、一度に沢山の食品を移動することが可能です。

大きな車両なので、安全面を考慮しドライバーも当社でご用意致します。

保冷車



当社施設（車両）を利用したことも支援

披露宴会場



結婚式場には様々な設備があり、披露宴と同じようなイベントを実施することも可能です。非日常の感覚を味わうことで、参加者同士の交流の場ともなり、「また行きたい！」と思っただけのような場所を目指しております。

送迎バスの利用も可能です。遠方よりお越しになる方は、送迎バスを利用することにより参加のハードルが低くなります。また、行き帰りの安全面も確保され、安心して参加することができます。

送迎バス



当社施設を利用してできること

葬儀場

○子ども食堂

- ・調理場（パントリー）の利用
- ・お弁当の提供
- ・模擬葬儀（儀礼体験）

○フードパントリー

- ・駐車場でのドライブスルー形式
- ・冷蔵庫、冷凍庫での食品保管

○学習支援

- ・野外活動の集合場所としての利用
- ・学習支援会場としての利用

結婚式場

○子ども食堂

- ・お子様ランチの提供
- ・ウェディングケーキの提供
- ・テーブルマナー講習
- ・模擬結婚式

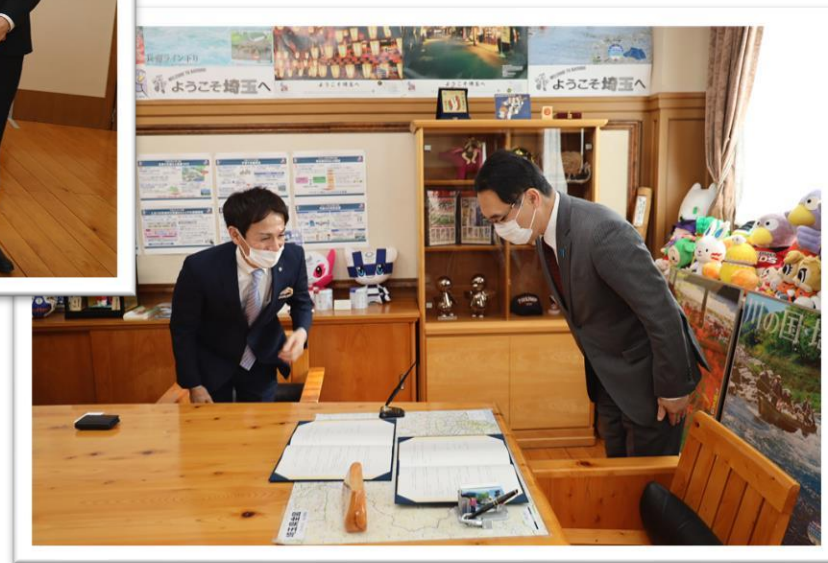
○フードパントリー

- ・会場での食品仕分け作業
- ・駐車場でのドライブスルー形式
- ・冷蔵庫、冷凍庫での食品保管

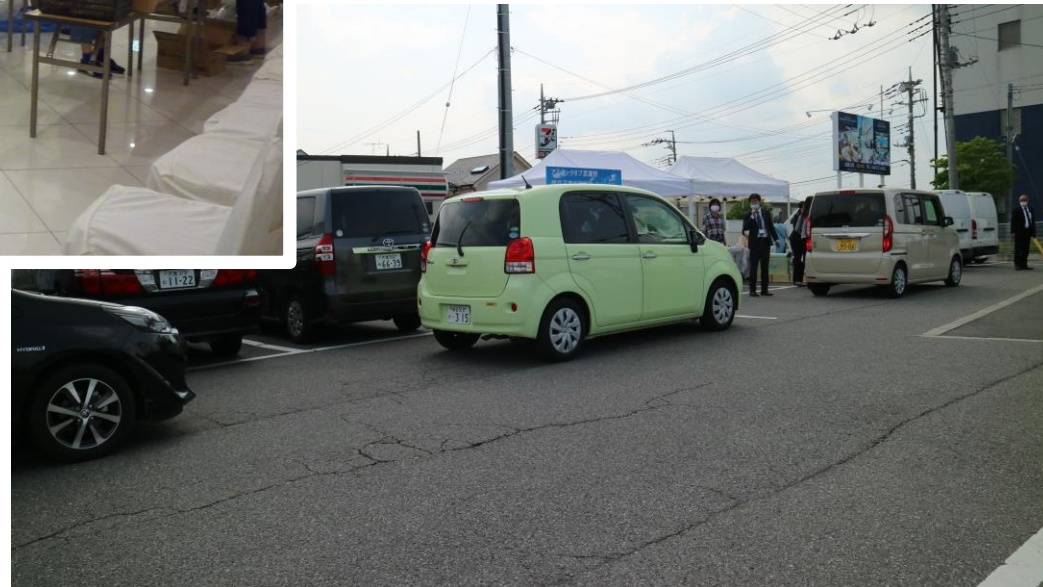
○学習支援

- ・野外活動の集合場所としての利用
- ・学習支援会場としての利用

『子供の居場所づくりなど少子化対策の支援に関する協定書』 2021年11月5日締結



開催事例 フードパントリー



フードパントリー（中間拠点間の配送）



開催事例 子ども食堂



結婚式場(チャペル)を利用しての
模擬挙式 体験



結婚式場(チャペル)を利用しての
近隣中学校の合唱部発表会 及び
ママさんサークル発表会



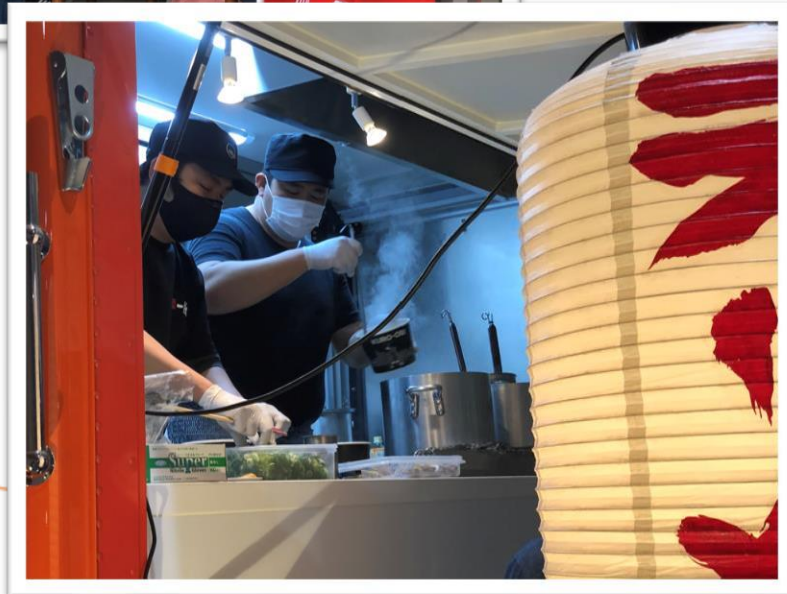
開催場所：
ベルヴィマリエール



開催場所：
ホテルガーデンパレス



一風堂とのコラボ子ども食堂の開催



開催場所：
草加葬斎センター
草加西葬斎センター

各施設での定期的に行っている子ども食堂



開催場所：
東川口葬斎センター
東岩槻駅前葬斎センター

開催事例 七五三体験



【子ども食堂団体と企業が協力をする上での課題点】

① 開催日時について

『子ども食堂』



『企業』

「〇月〇日に
子ども食堂をおこないたい」

「〇月〇日は結婚式の予定があり
開催するのは難しい...。」

子どもたちが必要としている日時に合わせて子ども食堂を開催したいと考える団体の希望に、企業として施設の予約が優先となり、希望通りに開催することができない。

また、日程は良くても、予約状況によっては開催時間の制限があり、時間に余裕をもった開催ができない。

② 携わり方について(その①)

『子ども食堂』

「子ども食堂で
〇〇〇をおこないたい」



『企業』

「〇〇〇をおこないましょう！
でも、何をしたらいいのか??」

子ども食堂団体が企画をした内容に、協力をしたいと考えても「何」ができるのか模索している。「人」の協力、「場所」の協力等、企業としてどう携われるかを検討するも、お互いに気を遣ってしまい、言いたい事も言いづらく『本当に求めているモノ』を提供する事が出来ているのか、不安になる。

「子ども食堂団体」=「お願いする側」と「企業」=「協力する側」

この図式に対して『対等』での話し合いは難しい。
お互いに対等な立場で「求めるモノ」に対して「協賛するモノ」の提供ができるようになることが必要。

② 携わり方について（その②）

『子ども食堂』

「これからも子ども食堂を
開催していきたい」



『企業』

「協力します！
でも今後の展望・目標は??」

この先も「子ども食堂」としての活動は必要となり、開催する事にも協力をしていきたいと思っているが、今後、団体として、どのような子ども食堂にしたいのか？どうなりたいのか？等のビジョンをしっかりと持って活動しているのかが分からず、不安になる事がある。

今後のビジョンを持つことは、今後の活動方針を決める重要な要素になると考えるが、1年後、2年後の展望をお伺いする事が少なく、いつまで今のままの携わり方をしていくのかと、今後の子ども食堂の在り方に不安を抱く事がある。

毎月の活動も必要ではあるが、今後の活動方針について、団体としても相談、検討して頂き、時には、情報共有の場も必要ではないかと考える。